

誇れる“あいさつ”を目指して

生徒指導主事 有澤 義一

「東五位小学校の自慢は“あいさつ”です。」

新1年生や新しい教職員の方々を迎える入学式や新任式で、6年生の代表が東五位小学校を紹介する時、決まって冒頭はこの言葉から始まります。確かに、毎朝、5・6年生が菩提樹付近に並んであいさつ運動をする姿は、他の学校に自慢できる取組の一つでしょう。しかし、登校してくる子供たちから返ってくるあいさつは、まだまだ元気がないですし、中には黙ったまま通り過ぎる子供もいるのが現実です。

先日、交通安全指導で街頭指導を行った際、見守り隊の方からこんな残念なお話を伺いました。「中には元気なあいさつをしてくれる子供もいるんだが、こちらからしても、あいさつが返ってこない子供たちが多いね。」「子供たちが元気にあいさつしてくれると、この仕事も張り合いがあんだけど…。」と。これでは「あいさつが自慢」とはとても言えないと、改めて反省させられました。

本年度、本校では、生徒指導の重点目標の一つに「進んで気持ちのよいあいさつをしよう」を掲げました。これまでも取り組んできた課題ではありますが、今年度こそは確かな成果が上がるように、教職員が一丸となって、目標達成に向け尽力して参りたいと考えています。ご家庭でも、お子さんの方から「おはよう」が当たり前に出てくるように、根気強く声を掛けてください。また、元気にあいさつをするためには、元気に朝を迎えることが大切です。早寝・早起きの習慣が身に付くように、学校と家庭が力を合わせ、知恵を出し合っていくことも、今年度の大きな課題の一つです。



「東五位小学校の自慢は“あいさつ”です。」東五位っ子が、胸を張って“あいさつ”を誇ることができるように、これからもご協力をよろしくお願いいたします。

「やる気」を育てる自主学習

研究主任 山崎 民子

本校は、昨年度から富山県小学校教育研究会の特別支援教育の研究指定を受けています。昨年度の研究からは、どの子も「分かる」授業づくりには、「学習規律」「学習環境」「仲間づくり」「振り返り」等の授業を支える土台が重要であることが明らかになってきました。「筆箱チェックカード」や「できたかなカード」等、ご家庭での協力のおかげもあり、本校の子供たちは落ち着いて学習に取り組むことができるようになってきました。しかし、昨年度の保護者アンケートでは「学年で決められた時間以上家庭学習をしている」の回答が、67%という結果です。

本当に分かったかどうかを確認するために、練習問題や発展問題に取り組ませたり、やり方を図などで分かりやすくまとめ直しさせたりします。この振り返りの時間を大切にすることで、学習内容をより定着させ、学習意欲を高めることができると考えます。

子供たちは毎日宿題を持って帰ります。今日の学習を反復練習させる意図で出すことが多いですが、子供たちにとっては、やらされている感が大きいかもしれません。しかし、自主学習ならばどうでしょうか。今日一日の学習の中で、「できてよかった」「分かって楽しかった」と思ったことをもう一度自分から繰り返し、「お母さん、難しい問題出して」なんて子供が言ってくれたらしめたものです。

運動会が終わったら、今年度一回目の家庭学習チェック習慣が始まります。子供たちにとって今後も大切な「やる気」を育てるためにも家庭での声かけをよろしくお願いいたします。